

(兼題)

「泳ぐ」

富田 蘭水 選

佳句

父さんの泳ぎ蛙に見せられぬ
いつからか泳ぎ忘れた亀になり
今ここで泳ぎ止めたら流される
群れに居て雑魚と同じ泳ぎする
迷ってる心がついに泳ぎ出す

松丘

すみこ

美千代

ちかし

らんまん

人

逢いたくて必死で泳ぐ向う岸

小豆沢歌子

地

息継ぎが苦手で世間泳げない

多久和敬子

天

七つの海泳ぐ男を好きになる

伊藤 玲子

軸吟

泳いでも泳がないでも沈んでる

富田 蘭水

(兼題)

「キャンプ」

岸 桂子 選

佳句

野営テント匍匐前進した昭和
ファイアを囲んでキャンプ夜は更ける
青春時代キャンプじゃなくて野宿した
寝袋で星と語らうキャンプ場
たいまつが火がロマンスを呼ぶキャンプ

寿美

あきら

放舟

健柳

たえこ

人

キャンプした記念写真もセピア色

桐原 洋子

地

キャンプファイア嫌なことなど皆燃やす

清水美智子

天

キャンプファイア心一つになつてくる

多久和敬子

軸吟

キャンプしたことは一度もない青春

岸 桂子

(兼題)

「なじる」

吉川らんまん 選

佳句

一寸したミスをなじりたがる上司
大声でなじると周りいなくなる
好きだからちよつぴりなじるこれも愛
前略の葉書の文字が怒ってる
ピーマンの私をなじる唐辛子

昌枝

歌子

健柳

寿美

松丘

人

それとなくなじった友へ悔い残す

佐藤 治代

地

なじられた事を肥やしにする強さ

柳楽たえこ

天

なじられてやっと相手の不満知る

仲田美千代

軸吟

降りしきる雨をなじって今日を記す 吉川らんまん

(席題)

「海」

竹治ちかし 選

人

太陽を海が丸のみして沈む
もやもやを大海原へ捨てに行く
大海の修羅場くぐって来たカモメ
父母の居ぬ故郷無口の海となる

銭山 昌枝

岡 あきら

珍部美江子

竹治ちかし

軸吟